



おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）
東京で大学・研究室生活を経てUターン
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビュアーの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる
心理学・新潟学等講師、経営学修士(MBA)、新潟郷土史研究会会員
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）
「おもしろ えちご塾」（桓文社）
「郷土とことわざ」（人間の科学新社・共著）等

「晩げのどんちゃん 朝げのふんちゃん」

これは、新潟に伝わることわざで、経験ある人にはよくわかる、ない人には全くもって理解しがたい語句でもあります。宴会や会合でよっぴて（夜遅くまで）よっぱら（さんざん）お酒を飲んでどんちゃん騒ぎ、翌日の朝は、「ふんっ、昨晚のことなんて憶えてないもんね！」と後悔と寝不足で不機嫌なふくれっ面。この状態を「どんちゃん ふんちゃん」と対句で韻を踏みながら、晩げ（晩方）朝げ（朝方）としっかり新潟弁で表現しているユニークな郷土のことわざといえましょう。

方言の宝庫新潟は、ことわざの宝庫でもあり、上記以外にも地域の特長を見事に表したものが多くあります。

たとえば「佐渡の着倒れ、越後の食い倒れ」。「あきゃきゃ、京の着倒れ、大阪の食い倒れじゃねんだかね？」と思ったあなた、単に全国区の「まねこきことわざ」ではありません。能・狂言や民謡等の伝統芸能が盛んな佐渡と、食の宝庫新潟、その両者の地域性を如実に表した地域のことわざです。江戸の昔より能が盛んであった佐渡は、今もなお島内三十余の能舞台が現存しているといわれ、その数国内の三分の一を占めるとか。それだけに古式ゆかしい装束の類も要します。またおなじみの民謡「佐渡おけさ」も揃いの浴衣やら編み笠やらの衣装も必要です。島内学校の体育祭演目（実際、佐渡では体育祭で踊るらしい。しかも県外人は島内外県民すべて佐渡おけさを歌って踊ると思っているらしい）や観光客の飛び入り参加ならいざしらず、民謡とあらば

体操服やジャージより、浴衣です、笠です、おけさです。というように猫にまたたび、佐渡には着物、まさに佐渡は「着倒れ」の名にふさわしい地です。

さらに、食の宝庫越後は「食い倒れ」、もちろん佐渡も食の宝庫ですが、越佐の対句と語呂の良さでこう称されたのでしょうか。

「晩げのどんちゃん 朝げのふんちゃん」「佐渡の着倒れ 越後の食い倒れ」、きまじめでひたむきな県民が「ハレの日」に見せるもうひとつの顔、それが「どんちゃん・ふんちゃん」「着倒れや食い倒れ」であったことがこのことわざから偲べれます。なお、一説によれば「京の木倒れ、難波の杭倒れ」（昔は河川の氾濫が多く京は橋を、難波は杭を復興に必要とした）が「着倒れ、食い倒れ」になったとか。ほかに「江戸の履き倒れ」（下駄や草履）「佐渡の舞い倒れ」（能狂言）「尾張の貯め倒れ」（物・金）もあり、地域の特色や気質を表した語句も多々あります。そうそう、「公家の位倒れ」「独楽の舞い倒れ」「大田の書き倒れ」（ウソです）もありました。ついでに「看板倒れ」「企画倒れ」「貸し倒れ」もありますが、何事も「計画倒れ」にならぬよう精進したいと思います。

